

# 平成29年度決算から考えられる 今後の町の方向性は？



質問者  
大館 秀孝 議員

今後、松田町の将来について、方向性をそれぞれの地区ごとの課題点をどのようにとらえ、解決策を考えられるのか、次の2点についてお伺いいたします。

- (1) 現在全国的に社会問題化している有害鳥獣対策について
- (2) 河川敷の安全面、活性化等に向けた利活用方

A



河川内の整備後に利活用を考えたい

回答(町長)



9/11 中津川右岸に奇小学校児童が花菖蒲を植栽

(1) 29年度の有害鳥獣防除対策事業の主な取り組みは、有害獣駆除報奨金などの購入、駆除委託、防護柵巡視委託、防止柵設置材料補助及び、新規事業として地方創生推進交付金を活用したハンター育成事業等を行い、総額約469万円の支出をした。ハンター育成事業は、若手や女性等、新たにハンターを志す方を掘り起こして、高齢化や担い手不足の対策を目的に実施した。

30年度は、より実践的な体験ができるよう展開している。

(2) 町内には、中津川、虫沢川、川音川、酒匂川の4河川がある。まずは、河川内の樹木の伐採や流路の確保などを目的に、神奈川県に働きかけての河川内整備が先決であると考え。次のステップとして、地域の活性化に資するために未利用空間の利活用に向け、計画したいと考えている。

..... 一般質問は、質問者本人の原稿を尊重し編集しています。.....

## 議員行政視察報告

平成30年10月9日(火)から11日(木)に、議員4名が山形県小国町、岩手県西和賀町の行政視察をしたので、その概要を報告します。また、岩手県陸前高田市の復興状況を現地見学しました。

視察議員 大館秀孝・齋藤永・小澤啓司・飯田一

中華まん等が商品化され、「美森マルシェ」や道の駅「白い森おぐに」等に直売所を設置、また、ネットショップも立ち上げ、流通網の整備拡充を図っています。荒廃農地を活用したワラビ畑は、鳥獣被害がなく当町でもできると感じました。

### 木質バイオマス温水利用

間伐材・林地残材などの未利用資源の活用や森林の保全、温室効果ガスの削減を目指して、木質チップボイラーへの転換を図っています。役場庁舎や小学校の暖房・給湯通路の融雪などに使用され、雪国ならではの必要経費であり、重油使用量は半減し大きな効果が出ています。木質ペレットストーブや新ストーブの普及拡大も図っています。(記 小澤 啓司)

観光客の受入促進環境整備に要する経費の補助をしています。これまで、Wi-Fi等公衆無線の整備、トイレの環境整備、施設のパリアフリー化、多言語での表示やホームページ・パンフレット・観光広告整備等を行い、本年度は新たに電子決済機器整備等を対象に機器の整備代金や決済手数料の補助を始めています。見習うべきことがたくさんあり、当町でも実践できると感じました。(記 齋藤 永)



西和賀町副町長等の説明を受けました

### 白い森ブランド推進計画

小国町は、面積は738km<sup>2</sup>で松田町の約19倍の広さであり、95%がブナ林に覆われた山地で、人口減少と高齢化が急速に進行しています。

雪解けと共に発芽する大量の山菜を活用した町おこし事業です。特産品として、山菜の水煮・醤油づけ、たかきび・山菜

### おもてなし環境整備事業

西和賀町は、総面積390・78km<sup>2</sup>で、約8

